勿凝学問 384

1998 年に書き留めていた「日本の新聞発行部数にみる世論形成の特徴」

2012 年 9 月 30 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

先日、会食の際の話の中で、日本の世論とメディアの話題、特に新聞の話題になる。そこで、僕が、日本の新聞の世界に誇る？発行部数の話をすると、一緒に食事をしていた人たちは、そのことは、日本の民主主義の性格を考える上での核心ですねと言って、手帳を出して、僕の話――2000 年頃のデータになりますが、世界の新聞発行部数の上位 5 位は日本が占め、イギリスの Times は読売新聞の発行部数の 7 %程度、産経新聞と人民日報の発行部数はほぼ同じというような話――のメモを取り始められた。

そこで、先ほど、パソコンの中を調べてみた。

実は、2004 年に「勿凝学問」を書き始める前にも、僕は、しばしば短文を書き留めていた。ハードディスクから見つけ出した「日本の新聞発行部数にみる世論形成の特徴」と題した文章を、十数年ぶりに眺め直してみると、ヘッダーに作成日時と最終印刷日時を設定していたようで、おもしろいから、そのままアップしておくことにする。

- ✓　「新聞発行部数にみる日本の世論形成の特徴」

ヘッダーの作成日時をみると、1998 年の年の瀬 12 月 30 日夜の暇つぶしに、新聞の発行部数などを眺めて遊んでいたようである。その 5 年後の 2003 年 10 月 10 日に、データを 2000 年まで更新している模様（更新前のデータは残っておらず）。

昔書いていた文章のタイトルが「・・・〔日本の〕世論形成の特徴」となっているが、本文は新聞発行部数を記録するに止まっている。当時のかすかな記憶がわずかによみがえってきたけど、「新聞の発行部数がこういう状況なのだから、日本の世論は推して知るべし。別に書かなくても分かるだろう」と考えていたはず。そしてあれから 14 年ほど経った今となれば、まじめに世の中のことを考える記者ほど、日本の新聞社で働くのは苦労も多かろうということが、このデータから推測もできる。

1998 年と言えば、その年の 7 月にイギリスへの 2 年間の留学から戻ってきたばかりで、イギリスで Times や Guardian の日曜版などを眺めていた経験と、日本の新聞を、頭のどこかで比較していたのだろうと思う。このあたりから、僕は、イギリスの新聞には Quality Paper と Tabloid があるけど、さて日本では？と考えるようになる・・・のかもしれない。

追記
なるほどっ。
勉強になりました。

2012/10/03（水）0:21
権丈先生

　相変わらず楽しく拝読しております。

　勿凝学問 384 にある新聞の話ですが、部数のほか、日本の新聞の特徴としてテレビ局を系列化している（資本関係はある場合もない場合もありますが）ということも重要です。
　大学時代に、憲法学の長谷部恭男教授から教わったところですが、アメリカの憲法学者 L.Bollinger という人の「プレスの部分規制」という論があるということでして、すなわち、テレビには公権力による規制があるが新聞・出版はそうでないのはどうしてかについて、「稀少性や社会的影響力という点で、放送と新聞とを区別することはできないとしながら、なお放送のみに一定の規制を加えることにより、少数意見の放送メディアへの反映を可能にし、かつ理念型としての自由なプリント・メディアを併置することによって、放送への規制を最小化させることができる」とする論とのことです（長谷部恭男『権力への懐疑』（日本評論社）第 6 章付論「放送制度の理念」）。
　で、この議論を講義で紹介した際に、長谷部教授は、「でも、この議論は、新聞社がテレビ局を所有したりしている日本では、（テレビ局への規制によって間接的に政府が新聞社に影響力を持ち得るので）成り立たないんだよね」というようなことを話していたのですが、そのような高級な憲法学的議論から離れて、実際に日本で起こっていることを見ると、こうした両者の関係は、テレビの報道内容を新聞が批判することがないという帰結をもたらしているように思います。
・・・